

2021年度青山地区 震災復興まちづくり訓練 第1回

青山地区での震災復興まちづくり訓練の意義

-先行実施地区での成果も踏まえて-



2021/11/21 9:30-12:00, 赤坂区民センター
市古 太郎(東京都立大学)

お話しする内容

1. 震災からの「くらしとまち」の回復のプロセスと課題を考える意義

- ・ 新宿区での復興まちづくり訓練映像から

2. M7.3 想定東京湾北部地震の被害像

- ・ 2012年東京都公表の想定東京湾北部地震の被害様相

3. 震災復興まちづくり訓練の意義

視点1：さまざまな視点で大震災時の被害を予想してみる

「くらし」と「まち」の回復課題を考える

視点2：回復過程の理解と地域資源を活かした対応アイデアを検討する

4. 港区での震災復興まちづくり訓練の成果から

- ・ 2020年麻布地区
- ・ 2019年芝浦・海岸地区，2018年度白金台四丁目，2017年度白金五,六丁目

5. 青山地区で想定される「くらしとまち」の回復課題

- ・ 研究室としてのまち点検と研究室会議での討議から

首都直下地震（東京湾北部地震）の被害像



主要路線の
道路啓開
少なくとも
1～2日
復旧を要する

地下鉄は **1週間**
私鉄・在来線は
1か月程度
運行停止

非耐震岸壁では
多くの施設が **機能停止**

被害の大きい港湾は
復旧に **2年以上**
を要する

ライフライン被害

都区部で
5割が断水







1割で下水道の
使用不可







都区部で
5割が停電

発災直後は
9割の
通話規制

首都直下地震（東京湾北部地震）の被害像

M7.3 東京湾北部地震 東京都による被害想定調査結果

| 項目 | 東京湾北部 M7.3 港区内の被害想定 |
|--|---|
| 揺れ  | <ul style="list-style-type: none"> 全壊：2,142 棟 (7.7%) 半壊：3,890 棟 (14.0%) ※港区内の全建物棟数は 26,997 棟 (2016 年), 27,812 棟 (2011 年) ※全壊被害大：大田 10,921 棟, 足立 9,933 棟など |
| 火災  | <ul style="list-style-type: none"> 焼失：276 棟 (焼失棟数率 1.0%) ※冬 18 時, 風速 8m/s ※区部で焼失率が高いのは, 品川区 31.9%(21,569 棟) |
| 液状化  | <ul style="list-style-type: none"> 全壊：8 棟 (0.0%) 半壊：448 棟 (1.6%) ※液状化被害大 (全半壊): 江戸川 12,187 棟, 葛飾 12,216 棟, 大田 10,575 棟 また江東 4,760 棟, 中央 857 棟など |
| 避難所生活者数  | <ul style="list-style-type: none"> 33,353 人 (16.3%) ※冬 18 時, 風速 8m/s 港区人口は 2010 年国勢調査 205,131 人 |
| 疎開  | <ul style="list-style-type: none"> 17,959 人 (15.3%) ※冬 18 時, 風速 8m/s ※疎開者：避難所以外のところへ避難する人 |
| 電気  | <ul style="list-style-type: none"> 23.4% (停電率) ※冬 18 時, 風速 8m/s ※区部全体で 24.9%, ※停電率大：墨田 61.8%, 台東 52.3% ※電柱総本数から被害率を設定 |

| 項目 | 東京湾北部 M7.3 港区内の被害想定 |
|---|---|
| 上水道  | <ul style="list-style-type: none"> 28.0% (断水率) ※区部全体で 45.0%, ※断水率大：墨田 79.6%, 江東 76.5% など |
| 下水道  | <ul style="list-style-type: none"> 28.0% (管きょ被害率) ※区部全体で 27.1%, ※被害率大：台東 31.7%, 墨田 30.7% など |
| 都市ガス  | <ul style="list-style-type: none"> 77.5% (低圧ガス供給支障率) ※東京全体の低圧ガス管は 140 のブロックに分割 ※火災延焼被害を考慮しない場合, 考慮すると 100% ※区部全体で 34.3% |
| 鉄道  | <ul style="list-style-type: none"> 大被害 0.1%, 中小被害 2.5% ※大被害：機能支障にいたる橋梁高架橋の被害 ※発災直後は安全確保のために運休となる |
| エレベーター  | <ul style="list-style-type: none"> 745 台 (閉じ込めにつながる EV 停止台数) ※近隣階に停止する台数は含まない ※東京都全体で 7,473 台停止 (都内で 166,814 台) |
| 港湾施設  | <ul style="list-style-type: none"> 136 バース (東京港の全 183 バース中) ※船舶係留ができなくなる |

震災復興まちづくり訓練がめざす3つの視点

視点1：さまざまな視点で大震災時の被害を予想してみる 「くらし」と「まち」の回復課題を考える

- ・ 八王子市上柚木地区（多摩ニュータウン）
- ・ 港区白金五・六丁目地区，芝浦・海岸地区

視点2：回復過程の理解と地域資源を活かした対応アイデアの検討

- ・ 豊島区长崎地区：地域主体のくらし・まちの「営み」アイデア
- ・ 港区白金台四丁目，麻布地区

視点3：ルールブックとしてまとめておく 〈事前〉復興まちづくり計画

- ・ 豊島区雑司ヶ谷地区：「いま，ここ」にある風景を継承したい
- ・ 豊島区池袋本町地区：復興まちづくり手順（たたき台案）
- ・ 豊島区南長崎地区：長崎はらっぱ公園

港区震災復興まちづくり訓練での討議内容と 回復にむけたアイデア

A. まちの特性と想定される震災被害および復興の課題

B. 暮らしとまちの回復に資する空間資源

C. 復興に向けた地域資源と活用アイデア

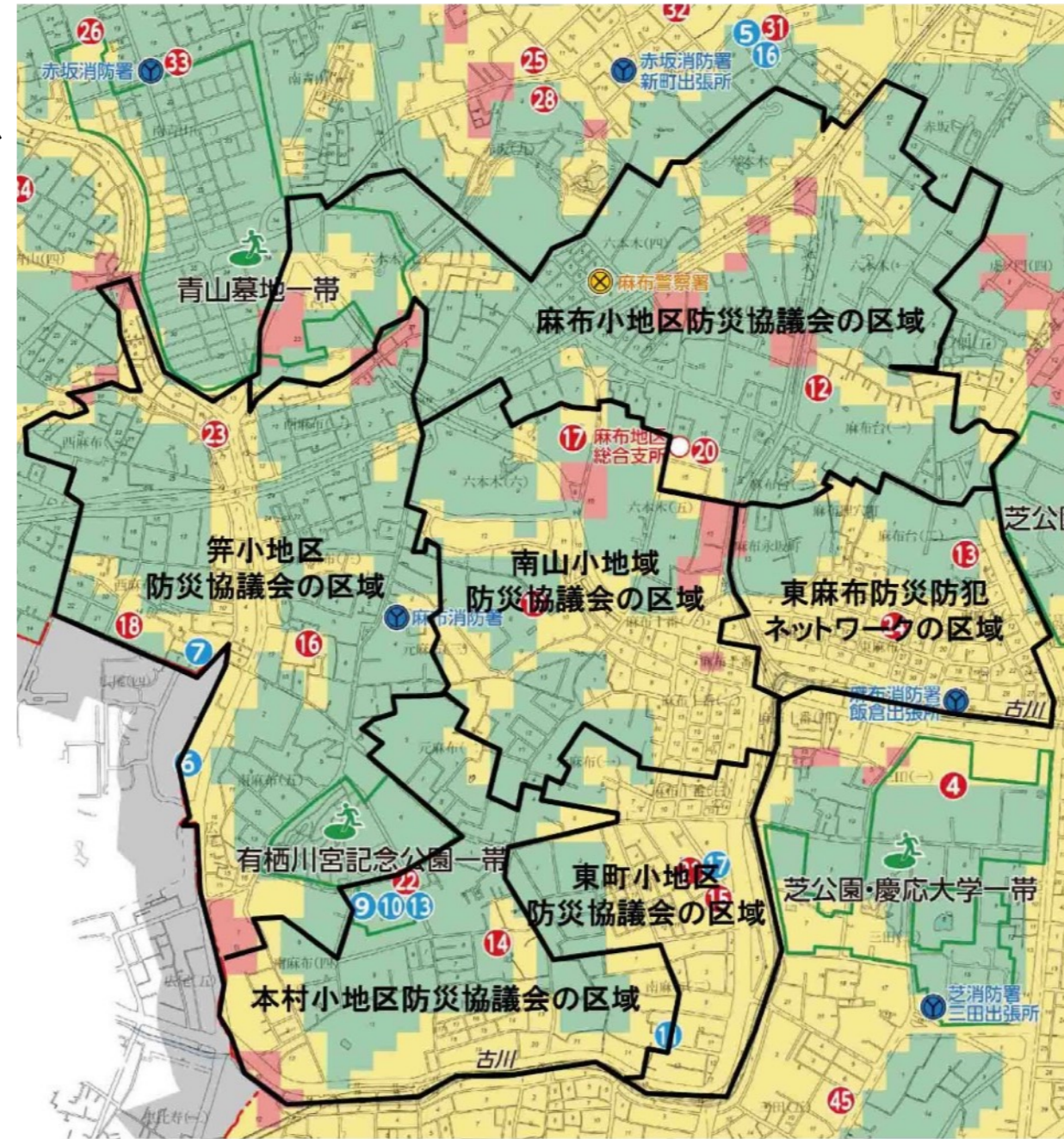
※港区での復興まちづくり訓練実施経緯

- ・ 2020年麻布地区
- ・ 2019年芝浦・海岸地区
- ・ 2018年度白金台四丁目
- ・ 2017年度白金五,六丁目

2020年度 麻布地区 震災復興まちづくり訓練 (1/2)

A. まちの特性と震災被害および復興課題

- ・ 6つの防災協議会，9つの福祉避難所，49の自治町会（うち休会中4組織）
- ・ 広域避難場所（青山墓地，有栖川宮記念公園）
+ 地区内残留地区指定
- ・ 坂（芋洗坂，狸坂，暗闇坂，狸穴坂，など）とスリバチ状の地形。
- ・ 土砂災害特別警戒区域指定のガケ・擁壁あり。
- ・ 再開発事業による住宅+商業+業務の複合開発
- ・ 再開発等で既存コミュニティが失われ，人の繋がりが弱くなっている面もある。
- ・ 繁華街であり，発災時の治安が不安。
- ・ 多くの帰宅困難者，業務継続，商業回復
- ・ 大使館（中国，ロシア，カナダ，フランス，ノルウェーなど）



B. 暮らしとまちの回復に資する空間資源

- ・ 再開発事業地区（「逃げるまちから，逃げ込めるまちへ」）
- ・ 日常生活に密着した（銭湯もある）麻布十番商店街
- ・ 仮設住宅用地候補としての有栖川宮記念公園。
- ・ 境内に空地のある寺社（善福寺，若松寺，天現寺，光林寺など）

2020年度 麻布地区 震災復興まちづくり訓練 (2/2)

C.復興に向けた地域資源と活用アイデア

- ・ 氷川神社や稲荷神社での例大祭。お祭りを担う氏子組織のつながりは大きい。復興につながれたら。
- ・ 自治町会と防災協議会は行政に地域として意見をまとめ提案する役割が果たせそう。
- ・ 麻布十番商店街は麻布地区の目玉。六本木と比べると趣のあるところ。十番商店街が中心になって地区を盛り上げ、周りの人が集まってくる。また生活回復がスムーズに進めば、十番商店街が早く復興できるのでは。
- ・ 飲食店の方に炊き出しを手伝ってもらったり、ワンルームに住んでいる若者に電子掲示板をつくってもらったり。
- ・ エリアマネジメント組織（六本木ヒルズ、ミッドタウンなど）



麻布小地区防災協議会 設立二十周年記念式典

日時：平成 29 年 12 月 5 日（火）

18：00～

場所：六本木ヒルズクラブ
「ホライゾンルーム」



1 麻布小での三角巾研修

設立の経緯

平成 9 年「麻布小学校地域防災ネットワーク打ち合わせ会」を前身として協議を重ね、平成 10 年に当該協議会が設立しました。設立総会までに参加した団体は、20 団体でありました。

設立の主旨

本協議会は、阪神淡路大震災を教訓とし、地震などによる大規模災害に対して地域の防災住民組織、事業者を中心に港区、消防署、警察署などの各団体と連携して、避難所等の自主運営を行うための組織です。

会長挨拶

暮れのお忙しい中、麻布小地区防災協議会二十周年記念式典にご出席をいただき感謝申し上げます。

日頃、行政の皆様を始め、事業者の皆様、町会・自治会の皆様には、ご支援ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

阪神淡路、東日本大震災以降、私共協議会も先進的に訓練および活動をしてまいりましたが、今後も皆様のご意見を取り入れながら多様化する災害に機動的に対応したいと存じます。

さて、六本木・麻布地区周辺の環境は、昼夜間の人口の変化に伴い、一度災害が起こると大変混乱することが予想されます。

今後事業者の皆様や町会自治会はもちろんの事、麻布の各組織の方々としっかり連携して三大課題である「帰宅困難者」「外国人」「犯罪」の各問題に取り組んでいきたいと思っております。

本日はありがとうございました。



2 六本木中での施設備品確認訓練

麻布小地区防災協議会 設立目的と活動の中での課題認識の広がり

2019年度 芝浦・海岸地区 震災復興まちづくり訓練 (1/2)

A. まちの特性と震災被害および復興課題

- ・ 13の地域自治町会で構成（多くが集合住宅単位で構成。効果的な継続のため「防災会」結成の集合住宅もある）
- ・ どのマンションでも共通するトイレ，水，エレベーター問題。
- ・ 階段に光が入らず真っ暗になる集合住宅あり
- ・ 橋梁が壊れると身動きできなくなる（運河も使えなくなるかも）。
- ・ 災害ゴミ問題（平時でも正月明けは集積所がパンク）

B. 暮らしとまちの回復に資する空間資源

- ・ 芝浦運河・高浜運河と船着き場（運河を使って救援物資を運ぶ）
- ・ 橋詰め公園，タワーマンションの敷地内緑地，運河沿いのテラス
- ・ 芝浦小学校，芝浦港南地区総合支所，男女平等参画センター
- ・ 海岸地区に立地する食品系冷凍倉庫
- ・ 田町駅周辺滞留者対策推進協議会（一時滞在場所，一時滞在施設）



2017年度 白金五・六丁目地区 震災復興まちづくり訓練 (1/2)

A. まちの特性と震災被害および復興課題

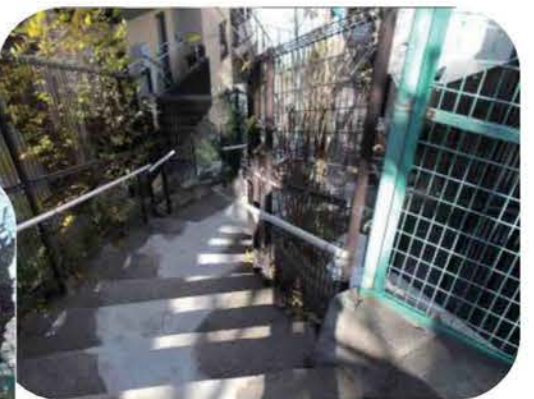
- 木造住宅 + **細街路** の街区
- **蜀江坂**, **明治坂** など坂の避難行動 (雨や雪の日の不安)
- 高低差による火災動態
- ブロック塀 + 擁壁のある路地

B. くらしとまちの回復に資する空間資源

- 旧神応小 (2015年閉校)
- 白金の丘学園 (復興訓練会場にもなった)
- 北里大学
- 聖心女子学院 (東京都指定の広域避難場所)
- 集合住宅への更新, 再開発によって創出された緑地・小公園
- 渋谷川 (首都高速の高架下空間ではあるが)



坂が多いので、階段が広くなって、安全に避難できるようになるとよい →



←災害後に、防災倉庫には何があれば、役に立つのか?

2017年度 白金五・六丁目地区 震災復興まちづくり訓練 (2/2)

C.復興に向けた地域資源と活用アイデア

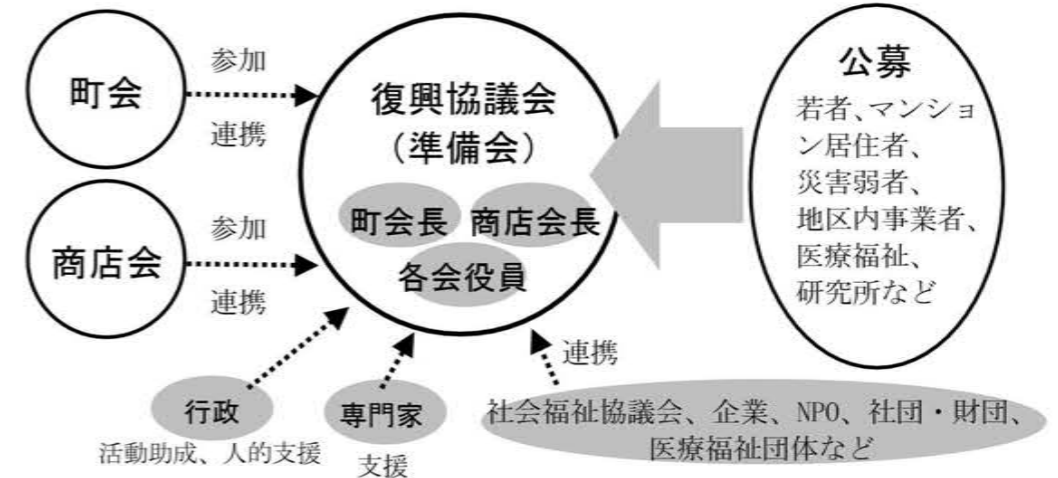
- **元気でしなやかな女性** (体操教室など)
- この地の集合住宅に引っ越してきた方で防災への関心の高い方もいる (訓練開催チラシを見て参加してきた中学生のお母さんも)
- **既存のお花見やお祭りの場**での災害時も意識したつながりづくり
- 「防災」をきっかけとした町会とPTAの関係づくり (**地区の中心に白金の丘学園**)
- **雷神山児童遊園, 旧神応小, 白金の丘学園の生活回復期の活用**. また北里大学, 東大医科研との一定の連携もできないか.
- 高層マンション, 戸建て住宅, 低層集合住宅で生活回復ニーズは異なる面もあるだろうが, **生活回復に必要な情報を共有する連絡会**は設置の意義があるのではないか.
- 民間の高齢者グループホーム, ケアセンターとの連携
- **民間不動産ディベロッパーと被災世帯との「よりよい復興」**

◆「1. 地域復興協議会 (まちづくり協議会) をつくる」 ●

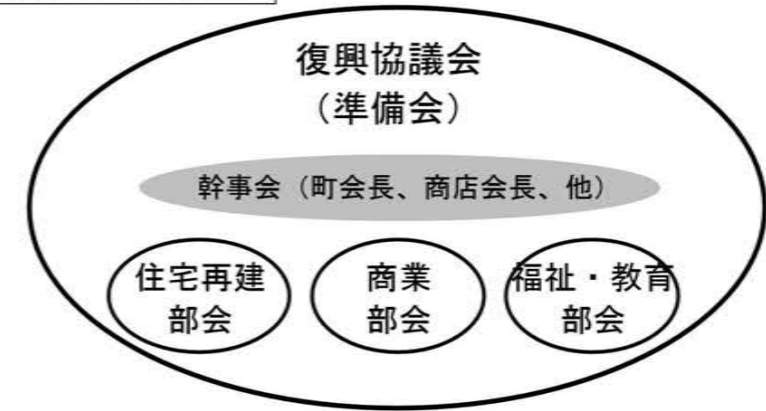
どの時期に、どのような体制が適切だと考えますか?

【体制のタイプ】

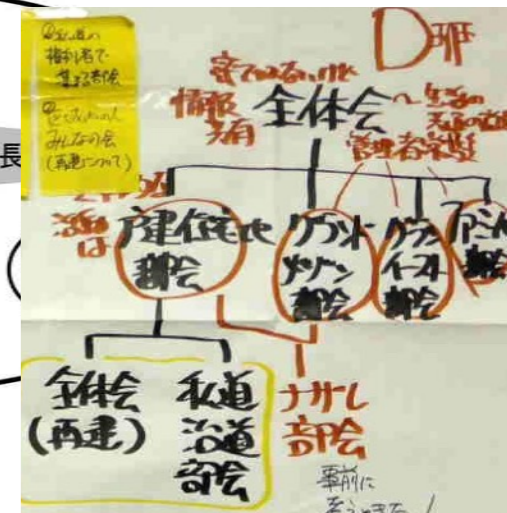
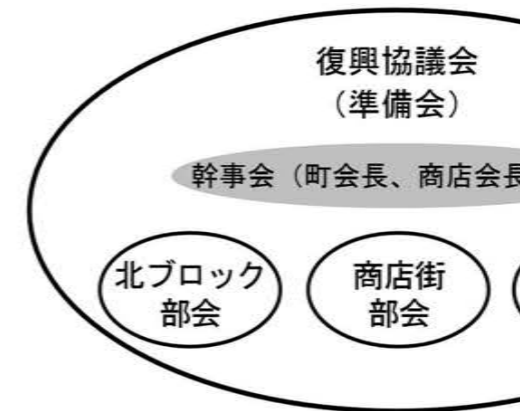
①地域コミュニティ重視型



②テーマ別による部会形式



③ブロック、エリア別による部会形式



2018年度 白金台四丁目地区 震災復興まちづくり訓練 (1/2)

A. まちの特性と震災被害および復興課題

- 白金五,六丁目と比べれば, **敷地はゆったり**している。一方で**医科研の擁壁での行き止まり道路**が複数ある。
- 江戸・明治の街割りから継承される**クランク+カーブの小径, ガケ沿いの小径**。
- **マンション防災**, 居住継続できるか。構造面だけでなく給排水などの設備系にも注意
- プラチナ通り+目黒通り沿いのマンション居住者の混乱と地域連携の行方

B. 暮らしとまちの回復に資する空間資源

- 東大医科研 (東京都指定の広域避難場所)
- 区民避難所としての白金小学校 (複数の町会をカバー)
- 白金台区民協働スペース (子育てひろば+学童も併設)。
- 白金台どんぐり児童遊園 (0.6ha) + 高齢者福祉施設 (白金の森) + 自然教育園へのつながり
- 明治学院大学でのオープンユニバーシティのつながり+学生ボランティア



2018年度 白金台四丁目地区 震災復興まちづくり訓練 (2/2)

C.復興に向けた地域資源と活用アイデア

- 「生きる気力を取り戻す」ことが地域が果たせる大事な役割では（**子どもへの遊び支援活動をしている参加者**から）
- **高輪女性防火の会，ヨガサークル活動など元気で地域愛のある女性**
- **マンション世帯と地域組織との連携。普段の地域活動には登場できていない子育て現役世代や若者世代も，災害時の大事な担い手であり，自然とリーダーが生まれること**が望ましい。日頃の地域活動を担う町会として，災害時に向けてどんな準備や活動が？
- これからの日常的な活動として「防災」のキーワードに地域の多様な住民や小さなグループがつながる「サロン」ができるといい。地域のさまざまな専門家も巻き込んで。
- **「片付け隊」などの地域ボランティア**。当初は避難所の白金小を相談調整センターとして活動できないか。
- 白金台区民協働スペース：避難所ではないが，地域としての避難生活の拠点になりそう（会館のない町会もある）
- **生活回復と復興まちづくりに関する被害と復旧支援情報の取り扱い方**



青山地区で想定される「くらしとまち」の回復課題と資源

1.集合住宅・マンションでの生活継続

※確かに「住家全壊」はほぼ、免れそう、だが、

- ・エレベーター停止と修理完了までの数日間のくらし。
- ・1週間後に電気は回復、しかし上水道はもうあと1週間（ライフライン停止期の在宅避難生活）
- ・治安維持、まちのにぎわい回復の遅れ

2.「くらし」を継続するための「公的」施設の活用アイデア

- ・小中学校は「学びの回復」への高いニーズが寄せられそう
- ・【高齢者福祉系】いきいきプラザ（青南，青山），北青山高齢者サービスセンター
- ・【子育て支援系】子ども家庭総合支援センター，ののあおやま（UR），子育てひろばあいぽーと（NPO法人）

3.ショッピングストリートの商業店舗（仮）営業再開の意義は!?

- ・豊かで魅力ある「中庭(パティオ)」 「敷地内空地」
- ・テラス席空間をつくるだけでもニーズありそう（クライストチャーチ，石巻など）

4.公園・オープンスペース

- ・青山公園，青山公園北地区（青葉公園）